

HPV ワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)について

HPV ワクチンは、子宮頸がんの原因となる、ヒトパピローマウイルス (HPV) の感染を防ぐワクチンです。9価の HPV ワクチンでは、子宮頸がんの原因の 80~90 %を占める、7 種類の HPV の感染に対して予防効果をもたらします。国内外で行われた研究結果では、HPV ワクチンを導入することにより、感染及び子宮頸がんの前がん病変を予防する効果が示されています。

下記の対象のかたは、HPV ワクチンを公費により接種することができます。接種を希望されるかたは、厚生労働省「ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん(子宮けいがん)と HPV ワクチン～」を参照し、ワクチン接種の有効性及び安全性等について、十分理解したうえで、接種してください。

厚生労働省ホームページ



定期接種

【対象者】 小学6年生から高校1年生相当の女子

(令和8年度は小学6年生・中学1年生のかたに、4月にお知らせと予診票を個別送付します。

令和9年度以降は小学6年生のかたに送付します。)

※今年度、中学2年生以降のかたで予診票が手元にないかたは、母子(親子)健康手帳と、申請されるかたの本人確認書類を持参のうえ、健康推進課(2000年会館 ⑤番窓口)にお越しください。

【ワクチンのスケジュール】

1回目の接種を受けるときの年齢によって接種のスケジュールが異なり、合計2回または3回接種します。



※1: 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

※2・3: 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。

- 子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。日本では毎年、約1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約3,000人の女性が子宮頸がんで亡くなっています。
- 若い年齢層で発症する割合が比較的高いがんです。患者さんは20歳代から増え始め、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。
- HPVの感染を防ぐことで、将来の子宮頸がんを予防できると期待されていますが、ワクチンでは防げないHPV感染もあります。子宮頸がんを早期発見し治療するため、

20歳になったら、2年に1回の子宮頸がん検診を受けましょう。